

教室をさらに「密」にする学校統廃合

子どもたちに

20人以下学級

地域に残そう

小規模学校



子どもの権利
・NGO大阪

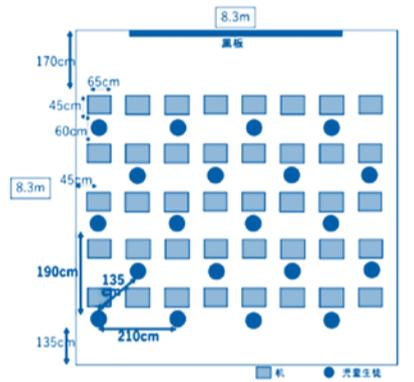
学ぶ権利、遊ぶ権利 成長発達の権利を守れ

子どもの権利・NGO大阪は7月14日府教委に、①コロナ対策・一律休校について子どもの意見を聞くこと、一律に休校しないこと、②1・2年生のチャレンジテストを使った高校入試内申書作りの



大阪市退職教職員会と大阪市をよくする会は8月25日、「地域から学校統廃合反対の声をあげよう パンフ学習会&スタート集会」を開き、地域で運動を進めている連合町会長さんらも含め37人が参加しました。

20人学級 (文科省「学校の新しい生活様式」から)



と報告しました。○一斉休校で子育て家庭が少数の富裕層と大多数の貧困層へと急速に2分○「収容」型大希望校でなく小規模校を○進まない統廃合に業を煮やす財務省、総務省、下請け文科省
○統廃合条例は教育への不当な介入
○小中一貫、統廃合にはデメリット。小規模校に教育効果
○災害便乗型で子どもがICT企業の実験台(オンライン)、利益追求の犠牲に
○保護者が立ち上がりはば対抗軸になる
○少人数学級実現の

方針を撤回すること、③文科省が示す「学校の新しい生活様式」は20人以下学級であり、少人数学級を直ちに実現することを求める、「コロナ禍の中で子どもの健やかな成長を願うための要望書」を提出しました。



育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

育鵬社採択をめぐっては、戦争美化、改憲誘導、学問研究の到達を踏まえ、明らかに誤りが多く教科書とは言えないものであること、フジ住宅(会長が日本会議参加団体)が従業員に好意的アンケートを呼びかけていた問題、当時の教育委員が教科書選定委員会の答申を重視して「不採択を心から歓迎」の声を上げました(写真)。

たんぽぽ だより 9月

学びも楽しみもぎゅっと詰め込んで、8月9日、10日にマルかじりゼミナールを開催しました。1日目は情報学習「コロナ禍における教育」とは。コロナ禍に「乗じて教育を商品化する動きの中

2日目はレポート交流会。参加者全員、青年も先輩も、今頑張っていること、聞いてほしいことなどのレポートを持ち寄り

「参加した青年からは「それぞれの職場の先生方と悩みなどを交流できたのがよかったです。また、社会科や外国語科、特別支援教育など、いろいろなテーマについて実践交流できたのもよかったです。2日間を通して「つながり」は大切だと改めて実感しました」と感想をいただきました。また、新たな要求も見出すことができ、とっても充実した2日間となりました。

オンライン授業の問題点

- スマホ使用は他の端末より疲労度が高い
- 中学生の11%が「強度近視」外遊びの少ない子どもに発症
- 脳の発達など5分野で被害
 - ①脳の発達阻害
 - ②睡眠不足による心と体の不調
 - ③視聴覚神経の発達阻害
 - ④運動器の発達阻害
 - ⑤ネット・ゲーム依存
- ゲームより疲労度高い傾向。子どもが画面を見る時間をできるだけ短く。低学年ほど負担が重い。こまめな休憩必要。
- ネットには必ずリスク。SNSによるいじめ、ゲーム依存、詐欺の被害...

大谷良光青森大学客員教授(子どものネットリスク教育研究会代表)、伊藤賢一群馬大社会情報学部教授の指摘から。

中学校分会交流会 不登校生が登校

中学校分会交流会を8月11日に行いました。交流の内容を報告します。

○休業中生徒間SNSトラブル増。朝令暮改の市教委指示による混乱。○分散登校中是不登校生が登校。授業に集中できない生徒が多かったなど、少人数学級の効果を確認できた。

○部活動では、「顧問ファースト」が未だに根強い、講師に顧問を強制。○同調圧力が強く学校を出にくい、本務に無関係の雑務が多い。○管理職等のパワハラ・セクハラが多い。青年も参加し悩みや疑問などを話し合えて有意義な時間になりました。より多くの青年の参加を呼びかけます。